

ニュースレター

いりおもての森から

林野庁 九州森林管理局
西表森林生態系保全センター
平成26年9月発行 No.42号



ハクサンボク

船浦中学校の浦内川筏下り、大原中学校の仲間川筏下り、を支援

5月17日(土)に、船浦中学校の三大行事である浦内川筏下りが実施され、当センターと租納森林事務所も森林環境教育の一環として参加し支援しました。

当日は、7時45分に浦内川駐車場に集合し結団式を行った後、浦内川上流の軍艦岩まで観光船で移動し、生徒と教職員数名は4艇の手作り筏に分乗し、その他の支援する教職員、保護者、支援者は船やカヌーに乗って筏下りを開始しました。観光船とすれ違うときには手を振ったりしながら、ゆっくりと下っていきました。途中のチェックポイントでは、琉球大学の先生からマングローブの話や、オヒルギ、メヒルギ、ヤエヤマヒルギの葉や根の違い等の講義を受け、西表島のマングローブが日本で最大の広がりがあることを知り大切にしていきたいなどの感想を述べていました。



船浦中学校の筏下り

7月13日(日)には、大原中学校の三大行事である仲間川筏下りが実施され、当センターと大原森林事務所も森林環境教育の一環として参加し支援しました。

当日は、6時00分に仲間川大富船着場に集合し、学年別に分かれた班の代表者が決意表明を行った後、筏を係留してある仲間川上流の9km地点まで観光船で移動し、生徒と教職員数名及び保護者が乗船した4艇の手作り筏に分乗し、その他の支援する教職員、保護者は船やカヌーに乗って7時05分筏下りを開始しました。



大原中学校の筏下り

一年生チームは力を合わせて櫂を漕ぎ最初から独走状態でしたが、2年生・3年生チームは右へ行ったり左へ行ったり、また、泳いだりしながらゆっくりと下っていきました。途中では班毎に筏上でバーベキュー等食事を取りながら、最後は干潮のためみんなで押しながら12時25分全員無事にゴールし、父兄が用意したぜんざいをおいしそうに食べていました。

森の巨人たち百選「仲間川のサキシマスオウノキ」の調査を実施

森の巨人たち百選に選定されている「仲間川のサキシマスオウノキ」の調査を6月18日(水)に実施しました。

調査では、サキシマスオウノキの生育状況に変化は認められませんでした。着生しているアコウの気根がサキシマスオウノキの幹をつたわって地中に向かって伸長していることや、周囲に生育するアコウがサキシマスオウノキの板根の伸長に支障を与えていることが年々顕著になって発現してきていることから、今年度「西表島巨樹・巨木保全協議会(竹富町役場主催)」において樹木医診断が実施される予定になっています。



仲間川木道周辺のマングローブ林の生育状況並びに生育環境調査を実施



6月24日(火)に仲間川支流の北舟付川(ニシフツガワ)の木道周辺に設定したマングローブ林の生育状況並びに生育環境調査を実施しました。

調査項目は、立木の生育状況の調査、稚樹の発生調査、地盤高調査、林内の光環境調査、定点観測撮影を実施しました。

結果については、各調査項目に大きな変化は見られませんでした。当該地周辺は支流沿いで軟弱な地盤であることから、これまでの累次の台風等による影響により倒伏の被害が発生しており、引き続き被害地の更新状況等を注視していく必要があると考えています。

西田川・ヒナイ川における利用状況調査(6月期) 報告



6月期西田川流域における利用状況調査を19日(木)、ヒナイ川流域における利用状況調査を20日(金)に実施しました。

結果は、西田川のカヌーツアーが1組(ガイド含め3名)、ヒナイ川のカヌーツアーが14組(ガイドを含め64名)でした。ガイドを除く利用者は男性26名、女性23名でほとんどが県外からの利用者で、若者10数名のグループもありました。中には、ピナイサーラの滝に来たのは2回目という大阪からの女性客もありました。

両日とも良いカヌーツアー日和となり、ほとんどの人が滝壺で泳いで楽しそうでした。

船浦ニッパヤシ群落のモニタリング調査を実施

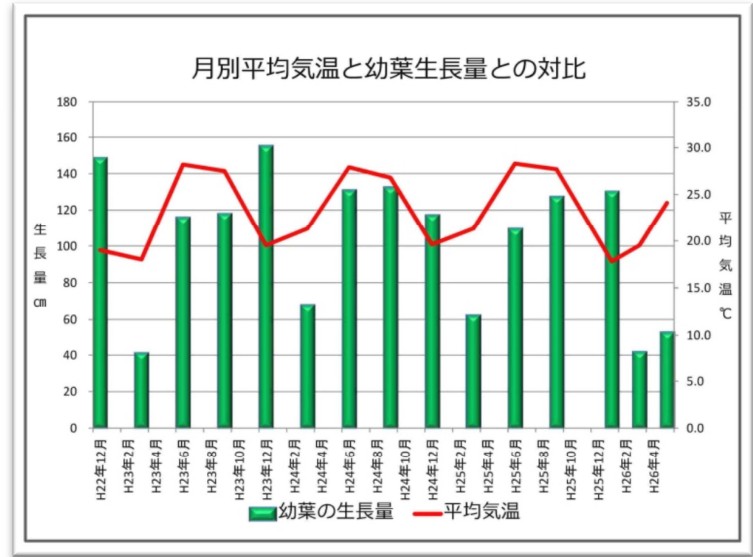
5月14日(水)に、船浦ニッパヤシ群落において、地盤高調査、ニッパヤシの葉数・葉高調査を行いました。

ニッパヤシの葉数・葉高調査では、幼葉の発芽が3本、幼葉の枯れを1本確認しました。

今回、西表島の気象データと船浦ニッパヤシの調査データを対比し検証したところ、過去において、西表島の1月から3月の平均気温は20度を下回っている月があり、最低気温も10度以下の日も確認できました。その時期の幼葉の生長量は、夏場の時期に比べると半分以下の生長量になっています。ニッパヤシの幼葉は平均気温が20度を下回ると成長が鈍化し、また、場合によっては枯れることもあるのではないかと考えられます。

今年の1月から3月の平均気温は何れの月も20度を下回っており、昨年よりも寒い気象条件だったようで、その影響のせいか今回のモニタリング調査では幼葉の成長が著しく劣っていることが確認できました。

また今回の調査で、発芽しているニッパヤシの種子が確認できましたので今後の成長が楽しみです。



「マングローブ研究とGIS技術」の研究会に参加

7月21日(月)から25日(金)かけて、琉球大学熱帯生物圏研究センター(西表島)で共同利用研究会「マングローブ研究とGIS技術」が開催され、当センターからも参加しました。

23日(水)に行われた研究発表会では、吉田生態系管理指導官が「西表島の国有林におけるマングローブ林の現状と今後の課題」という発表を行い、当センターを紹介するとともに実施しているマングローブ林の生育環境調査と仲間川の台風被害地の状況について、報告しました。

本研究会ではマングローブ林等に関する様々な調査研究と最新のGIS技術の利用状況などに関する発表が行われ、非常に有意義な研究会でした。



ハクサンボク

科名 スイカズラ

低地から山地の林内などに生育し、高さ1.5-6mになる小高木です。樹皮は黒褐色、若枝は緑色でのちに帯紫色になります。葉は革質で長さ5-20cm、幅4-15cmです。表面はなめらかで光沢があり暗緑色です。葉の上部に荒い鋸歯があります。枝の先から白色の花が咲き、悪臭があります。実は核果で楕円体、長さ7-9mm、赤く熟します。

西表島の似たものの植物

ゲットウ

V s .

クマタケラン



区 分	草本類
分 布	九州南部、沖縄、小笠原、台湾、東南アジア
葉 の 形	長楕円形
葉 の 縁	毛縁状
葉 の 先	鋭形

区 分	草本類
分 布	石垣島、西表島、台湾
葉 の 形	長楕円状被針形
葉 の 縁	毛縁状
葉 の 先	鋭形

葉 の 種 類	単葉
葉 の 付 方	互生
葉 の 基 部	
実 の 種 類	蒴果
花 ・ 萼 色	白色で先端は淡紅色

葉 の 種 類	単葉
葉 の 付 方	
葉 の 基 部	鋭尖形
実 の 種 類	蒴果
花 ・ 萼 色	白色

説明
民家の側や畑に植えられ、高さ1-3mになる常緑の多年生の草本です。葉の長さ50-80cm、葉の縁は毛縁状です。花は総状花序で垂れ下がり、白色から淡紅色、長さ20-30cmです。実は球形で長さ2cm程度です。クマタケランよりも大型で花が垂れ下がることから見分けられます。和名は「月桃」。竹富町の花に指定されています。

説明
山林内に生育し、高さ1-2mの常緑の多年生の草本です。葉の長さは50-70cmで、葉の縁は毛縁状です。花は総状花序で白色、上に向いています。実は球形で1cm程度、赤く熟します。和名は「熊竹蘭」

林野庁 九州森林管理局 西表森林生態系保全センター

〒907-0004 沖縄県石垣市登野城55-4 石垣地方合同庁舎内
TEL : 0980-88-0747 FAX : 0980-83-7108

URL: <http://www.kyusyu.kokuyurin.go.jp/huresen/huresentop.htm>

